

## 官民相互連携による アントレプレナーシップ教育の推進

ジュニアエコノミーカレッジは、子どもたちが株式会社を設立して、実際に商売を体験するというプログラムです。8年前からスタートしたこの事業は、回を重ねるごとに規模も大きくなり、これまでに参加した児童数は述べ1,000人を超えています。また昨年度は、日本Y E G大賞日商会頭賞と、ジャパンベンチャーアワード2008起業教育部門奨励賞を受賞することが出来ました。

私たちは、起業教育とは「自ら課題を設定し、考え、解決する力」を養うことだと考えています。多くの教育が「知識の伝達」を行うのに対し、我々の作ってきたプログラムは「行動のための環境」を子どもたちに与えるものです。ですから、ジュニアエコノミーカレッジに正解はありません。学校のテストに慣れてしまっている子どもたちは「正解のない問い」を前にして、最初は戸惑ってしまいます。しかし、カリキュラムを進めるにしたがって「どうしたらいいのか」がわかるようになります。子どもたちは自分たちで「決め」ていくことによって「必然的な結果」を得る体験をします。これこそが我々の狙いです。

私たちは商売を通じて、子どもたちに「自らの意思で前進する」体験をしてほしいのです。この体験が自分の中の成功モデルとなって、さまざまな現実の問題に対処できるようになればと願っています。

未来を担う子どもたちを育む環境の整備のためには、民間の努力だけでは実現しにくいこともあります。民間と行政がそれぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携することが必要です。会津若松がひとつの大きな家族のように、みんなで子どもたちを育てていける地域になることを望み、本提言をまとめさせていただきます。

会津若松商工会議所青年部  
人づくり委員会  
委員長 吉川 哲也